

第76回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日 時	平成30年5月31日（木）14時00分～16時00分
開催場所	関内中央ビル 10階大会議室
出席委員	工藤委員長、蟻川委員、有賀委員、大久保委員、岡本委員
欠席委員	なし
法 人	事務局長ほか
事務局	海道大学担当理事、森田大学調整課長、井上大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 0名）
議 題	1 第75回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）について 2 横浜市公立大学法人評価委員会 評価の考え方・進め方について 3 公立大学法人横浜市立大学 平成30年度 年度計画概要について 4 データサイエンス学部における入試結果について 5 国際総合科学部の再編について 6 平成30年度 横浜市公立大学法人評価委員会開催予定について 7 その他
決定事項	
議 事	<u>主要な発言は、以下のとおり。</u> <u>（○：委員発言、△：法人・事務局発言）</u> ※議題1について 特に意見なし ※議題2について 特に意見なし ※議題3について ○P4の学生生活アンケートとはどういう形式のものなのか。 ○今回新設されたデータサイエンス学部や、再編が見込まれる国際総合科学部の学生などに 対して、入学時のイメージや4年後の評価（満足だったか）等のアンケートを取り調べれば、それ以降の大学の諸計画に活かせる情報が得られるではないか。 ○今年度は創立 100 周年の 10 年前の大切な年である。今後のビジョンを大切に。 △学生アンケートは3年に1度実施している（学習環境、Wi-Fi 環境、海外留学、インターンシップ、学生生活の問題点等）。 ○卒業生に対するアンケートは大学で学んだことがどのように社会で生かされているか、逆に在学時にもう少しこうであれば良かった等を知るいい機会となり、大変貴重である。 △I R等いろいろやっていきたい。 △100 周年に向けて大学への期待感が高まっている。 △100 周年以降の大学についても考えていく。 △母校愛の醸成が重要だと考えている。 ○資料の年度計画概要に年度計画詳細の番号が入っていてわかりやすい。 ○本委員会では指摘した事項に対する内容の説明があり、分かりやすくなった。しっかり取り組んでほしい。

○資料 3、Ⅱの 2 番目の◇で、横浜都心部進出の検討とあるがどういう意味なのか。

△例えば、社会人向けのデータサイエンス学部大学院等の拠点について、利便性を踏まえて、関内・みなとみらい等の横浜都心部に設けたいという趣旨だ。

○課題解決のために拠点を設ける等、わかりやすい表現にしたほうが良い。

○地域医療に関する目標を達成するための取組の一つとして、【28】に地域包括ケアシステム等の記載があるが、資料に記載のあるよこはま保健医療プランは法定で位置づけられた地域医療計画を指すのか。

○その他、第 3 期中期計画、市中期 4 か年計画等、資料に記載されている様々な計画が同時並行で推進が図られている中、目標期間が異なるものもあり、「平成 30 年度 年度計画」との整合性や、関係性が分かりにくい。

○医療安全の分野の記載で【35】に外部認証評価の取得の記載があるが、「一般病院 3」はいつ受けるのか。

△保健医療プランは国のガイドラインにそって、本市が任意で策定している。附属 2 病院は高度医療のみならず、地域医療の役割も担っている。市中期 4 か年をはじめ、関連する計画とは中間振り返り結果を共有するなどの連携をとっている。

○地域医療計画(保健医療プラン)の内容等が、年度計画のどの部分にコミットしているのか分かりづらい。

○それぞれの計画の関連性が、外から見てもわかるように記載したほうがいいのではないか。

○先ほど、母校愛の話が出たが、愛校心を深める取組は大切。他大学で興味深い取組を行っている事例もあるようだ。

△一般病院 2 から 3 を目指し機構の方と打ち合わせをしているが最終判断はまだ。

○一般病院 3 を受けることを前提に準備されたら良い。

○附属 2 病院に関する事項など、具体的に施策レベルまで詳細に記載している箇所もあれば、「検討」や「見直し」などの表現にとどまっている箇所もあり、記載内容だけでは、具体的に何を行うのか見えづらい箇所もある。計画全体の具体性に濃淡がある印象だ。

○経営は「ヒト」「モノ」「カネ」が基本といわれている。

○全体的に体制づくり、仕組みづくり、人材育成などのインフラ整備がしっかり取り組まれていなければ、具体的に施策展開しても、効果は限定的となり、継続しないと思う。

△附属 2 病院の再整備構想については、2 病院の役割分担も含め、10 年後どのような形にするのかこの期間に検討していきたい。

△本学はプロパー職員が 4 / 5、市派遣職員が 1 / 5 の構成となっている。本学の自律的な運営の推進に向けて、特にプロパー職員の人材育成が重要だと考えている。

○国公立大学は、私立大学等に比べ、一部を除いて母校愛を醸成することが得意でないように見える。多くの国立大学では、法人化を契機に学部ごとの同窓会を全学的なものにした結果などにより、逆に以前よりも OB から寄付が集まらなくなったケースもあるようだ。市大キャンパスは八景と福浦で離れているので連携が難しいかもしれないが、むしろ他山の石としていろいろチャレンジされ、健闘されるよう祈りたい。

○他の委員の指摘の「検討」「見直し」部分(例えば、資料 3【10】【20】)は外部の人が見た時に具体性が弱く、分かりにくい。○○の方向で検討するとか、○○すべく見直しをするとか、少し言葉を足されたらいいか。

○市大は学校愛というよりも、学部愛が強いことや、八景キャンパスと医学部との交流が少ないなど、全学イベントが少ない印象だが、最近の学生をみていると、昔に比べ、市大の校風が変わってきているように見える。

	○マンモス大学ではないことをチャンスと捉えて考えてもいいのではないかな。 ※議題 4、5、6 について 特に意見なし ※議題 7 について ○データサイエンスの分野は産業界でもニーズが高く、今回新設したデータサイエンス学部は話題にもなっている。データサイエンス学部の定員は当面 60 人なのか？増やす計画はあるのか？ △ニーズの高さは認識しており、今後の社会の動きも見ながら、検討していくことになるが、当面は現定員で行く予定。 ○ニーズは高い分野であり、同様の学部を新設する等の動きに出る他大学もあると思う。早めの対応を。 △社会状況の変化のスピードは速いので考えさせていただく。 ○資料の作りがよくできていてわかりやすかった △次回のスケジュール等、連絡事項の説明。
資 料 ・ 特記事項	[配付資料] 資料 1 第 75 回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案） 資料 2 横浜市公立大学法人評価委員会 評価の考え方・進め方について 資料 3 公立大学法人横浜市立大学 平成 30 年度計画概要図 資料 4 公立大学法人横浜市立大学 平成 30 年度年度計画 資料 5 データサイエンス学部における入試結果 資料 6 国際総合科学部の再編 資料 7 平成 30 年度 横浜市公立大学法人評価委員会開催予定 資料 8 横浜市中期 4 か年計画 素案（抜粋） [参 考] 公立大学法人横浜市立大学関係資料